

令和7年度 第2回綾瀬高等学校学校運営協議会【議事録】

日 時：令和7年11月11日(火)15:30～

会 場：会議室

1 開会(開催の確認)

2 校長あいさつ

第1回学校運営協議会后、文化祭、修学旅行などの行事を経て、直近ではインフルエンザの流行のため3クラスが学級閉鎖になりました。部活動では弓道部が関東大会5位、インターハイ出場、陸上競技部が走り幅跳びで関東大会に出場したことを報告します。

本日は綾瀬高校の前期の活動と令和7年度学校目標についての中間報告をさせていただきますので忌憚のないご意見をお願いします。

3 報告事項

(1)綾瀬高等学校 前期の活動について(副校長)

4月 始業式(7日) 入学式(8日) 部活動オリエンテーション(9日)

5月 学年別遠足(8日)〈1年八景島 2年東京散策 3年ディズニーリゾート〉

前期中間テスト(19日～21日)

特別募集制度、保護者対象進路学習会(31日)

6月 体育祭(6日)

綾瀬市小学校教員インクルーシブ見学(24日)

学校運営協議会(24日)

1・2年生保護者対象進路講演会(28日)

7月 前期期末テスト(1日～4日)

リモート授業(22日)〈大雨や台風に備えて〉

夏季休業(25日から8月27日)

8月 部活動体験デー(3日)

公私合同説明会(7日)〈中学3年生向け座間市大和市綾瀬市公立高校および近隣私学参加 オーエンス〉

第一回学校説明会(25日)〈大和シリウス〉

9月 第一回学校推薦型入試推薦会議(5日)

横浜国立大学学生インクルーシブ見学(9日)

文化祭(27日28日)〈来場者2700名〉

10月 オープンスクール 部活動体験(11日)

2年生修学旅行(21日から24日)〈東北方面〉

県地区 PTA 連合会県央地区協議会大会(22 日)

橘川綾瀬市長(本校卒業生)来校(24 日) 本校 50 周年を迎えるにあたって(式典は 11 月 5 日予定)

(2) 令和7年度 学校目標(中間検証)に係る校内評価報告について(各担当総括)

①教育課程・学習指導(学習支援 G)

- ・電子黒板を利用した授業展開、生徒も自分の端末を使用して調べ学習を行っている。
- ICT 機器を活用した授業づくりについては、12 月に実施される生徒による授業評価で結果を検証したい
- ・教材等の UD 化についてはかなり浸透している。
- ・グループワークやプレゼンテーションなど全体で取り組む授業が多いので、取り残されることなく皆が授業に参加できている。授業の互観週間(11/4~7)を経てさらに授業改善を図っていきたい。

②生徒指導・支援(生活支援 G、生徒会・広報 G)

- ・サポートドックおよび生活アンケートを活用し、生徒からの SOS に対応するとともに、SC や SSW と連携し生徒が求める支援を探る一方で、児相や青少年センターとの情報交換の機会を増やしていきたい。
- ・学校行事(特に文化祭)では実行委員を中心に生徒が主体的に取り組むことができた。今後も生徒の特性に応じた助言をしながら、生徒が行事を通して学校生活に充実感を持てるような体制を作っていきたい。
- ・部活動では関東大会、インターハイ、全国大会に出場するなどの活躍が見られ、HP で発信した。HP 担当の増員や迅速な情報共有に努め、さらにスピーディーな発信を目指したい。

③進路指導・支援(進路支援 G)

- ・進路説明会や模擬試験(特に一般入試の生徒が有効活用)を計画的に実施した。入試制度が大きく変化する中、3年生保護者に向けては早めの情報提供に努めた。年内入試では、明確な卒業後の進路を求められる傾向がある。
- ・インターンシップは卒業後の進路実現に向けて有効と考え、夏休み期間中、1・2 年生中心に実施した。(市役所や自衛隊等へ)
- ・総合的な探究の時間では、進路に向けた個人探究や、地域と連携しながら集団での学びを通して生徒の能力向上に努めている。来年度に向けてもより良い方法を模索していきたい。

④地域等との協働(学校管理 G、生徒会・広報 G)

- ・学校運営協議会の内容を職員全体に共有し、いただいたご意見を各グループの目標達成に生かしている。
- ・年度当初に各部活動顧問に積極的な地域との交流を呼びかけた。フラダンス部は定期的に活動(自治会文化祭や綾瀬市民文化祭参加等)、野球部・女子バレー部は綾瀬市の福祉レクリエーション大会に参加した。ダンス部も地域で発表の機会をいただいている。生徒がそれぞれの活動を通して充実感を得ると同時に、地域の方々も楽しんでくださっていると思う。今後も継続していきたい。
- ・探究活動においても、9 月に実施されたキッズフェスタに 2 年生の 3 つの班の企画が選ばれ、30 名ほど

の生徒が参加した。

⑤学校管理、学校運営（インクルーシブ教育推進 G、学校管理 G、教頭）

- ・綾瀬高校は、いろいろな特性を持った生徒たちの違いを認めて皆で楽しく生活していく学校だと生徒に説明後、学校生活をスタートした。一般募集の生徒たちの受容能力は高く、感心することが多い。特別募集の生徒たちがいかに周りとの溶け込んでいくかが課題。
- ・一人ひとりの生徒の特性を見極めた進路指導をしてきたが、今年度からは県のアセスメントも利用し、さらにその質を上げたいと考えている。
- ・危機管理マニュアルを更新し、4月にシェイクアウト訓練、避難経路確認をした。7月にはグラウンドへの避難訓練(コロナ渦以来、担任の引率ではなく選択授業時を想定)を行った。迅速な点呼確認ができるよう繰返しの訓練が必要である。合わせて、帰宅班の確認(メンバーの顔合わせ)、DIG訓練(帰宅経路を個人で確認)また備蓄品の整備などを実施した。実際の災害時には地域との連携が必要になると思われる。
- ・働き方改革については、グループ改編による業務の削減に向けて現在検討している。
- ・勤務時間外の電話対応は自動応答が有効に使われている。
- ・事務処理や会計処理については簡素化を実践し、部活動や教材研究、生徒対応など簡素化できない業務についても、ライフワークバランスも考えながら在校時間の削減に向けて引き続き取り組んでいきたい。

4 協議

(1) 委員からの意見聴取と協議

○校内評価について

委員長より

文化祭(9/27)に参加された感想

- ・挨拶ができる生徒が多い。
- ・生徒たちの表情がよく、生徒と先生の良い関係が見てとれた。

理由:教職員の生徒への言葉かけ、授業改善を積極的に行っている姿勢が子供たちに伝わっている。

インクルーシブ教育実践校として、生徒が過ごしやすい環境作りを学校挙げて取り組んでいる。

ダイバシティ(多様性)を重視している。

学校説明会(10/11)に参加された感想

- ・授業参観者を意識したわかりやすい掲示物(単元や授業内容)が教室入り口に貼ってあり良かった。
- ・授業では発問の工夫が見られた。(誰でもが自分の考えを発言しやすい雰囲気)

教職員が生徒一人一人を大切にしている→退学者が他校に比べて少ない

Q 進路についても充実している(東海大学、桜美林、神奈川大学、関東学院…)

神奈川大学については何学部への進学が多いのか。

A 神奈川大学への進学は、文系・理系まんべんなく進学している

委員より

- ・綾高生の挨拶の良さが多方面から耳にする。
- ・自治会文化祭へ 綾瀬高校フラダンス部の参加に感謝。
- ・クロムブックの活用について、教員・生徒共に力をつけているように見受けられる。

Q 支援を必要とする生徒に対する教育センターの関わり(アセスメント)について知りたい。

A 総合教育センターのキャリアアセスメントでは諸検査により作業の得意不得意の傾向がわかる。結果を参考に、特別支援学校や就労支援を実施している団体など外部と情報交換し、進路指導している。

総合教育センターではキャリアコンサルタント事業もあり、所員による学校訪問相談ができる。小中学校もえびな支援学校に連絡すれば可能。(委員長より補足)

委員より

- ・学校評価報告書についてまとめた資料がとても見やすい。
- ・文化祭では門に入ってすぐの看板から学校の活気を感じた。
- ・自治会文化祭は、寺尾小学校を会場に、中学校は陶芸部と家庭部が出品、高校はフラダンス部が参加、小中高と一体となり地域の子供たちの活動として素晴らしい。今後も繋げていきたい。

委員より

Q 情報モラル、個人情報の取り扱い、SNS に対しての指導についてどのように行われているか。

お互いの位置情報を容易く交換する時代 事件に巻き込まれる可能性もあり、学校から注意して欲しい。

A 行事の折々に声をかけ啓発しているが、生徒たちの意識はまだ十分とは言えない。外部の機関を通じてさらに危機意識を学ばせたい。4 月に携帯電話教室実施、12 月に警察の方から話をしてもらう予定。

スマホがあまりにも高性能になった。保護者や教員(小中高)だけでなく、警察など外部とも連携し、様々な視点から厳しく見ていく必要がある。

○学校運営も含めたご意見

委員長より

- ・全日制高等学校の役割は多様な生徒を受けることにある。「本人にこの学校は合わないと言う善意から進路変更を迫る」、これはインクルーシブ教育の考えが不足している。綾瀬高校がここ数年取り組んできた生徒一人ひとりを大切にする、多様性のある子供たちをどう生かすかという視点で学校運営をする。これを継続することの重要性を強く思う。授業改善やリソースルームの有効活用、スクールカウンセラー、SSW との連携を図る、その他の機関と連携を図るなどして、学校が抱え込まないという姿勢も良い。多様な進路選択があることは保護者にとっても嬉しいことであり、この点は学校説明会でも広報すべきである。

・2017 年 8 月 7 日の綾瀬高校前での交通事故について

絶対に忘れないように伝え続け、入学した生徒が全て卒業できるよう今の綾瀬高校を維持してもらいたい。

A 交通安全について

ヘルメットの着用啓発を継続して行う。

11/27 綾瀬市の地域活動推進課と神奈川県警の方による交通安全教室を実施予定。

5 連絡事項

次回（第3回学校運営協議会）は、令和8年3月3日（火）15:30～の予定。

委員の皆様から 令和7年度学校目標に対する「学校関係者評価」をいただきます。